

平成24年度一般会計当初予算説明資料

6款 農林水産業費

5項 水産業費

水産課(内線:7309)

2目 水産業振興費

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 豊かな海づくり事業(井戸海水の導入調査事業)	3,906	0	3,906				3,906	
トータルコスト	5,515千円(前年度0千円)[正職員:0.2人]							
主な業務内容	港湾の公用地における井戸海水の試験掘削調査							
工程表の政策目標(指標)	—							
<p>事業内容の説明</p> <p>1 事業の目的・概要</p> <p>自然海水は水温が季節によって変動し、水温が高い夏場は活魚槽の管理が難しい。井戸海水が利用できれば、年間を通じて水温が一定かつ清浄(細菌、ウイルス等の汚染が少ない)な海水を利用し、陸上での養殖業が行えるようになる。</p> <p>井戸海水の導入にあたっては、技術的・資金的なハードルが高いため県が港湾の公共用地で井戸海水の試験掘削を行い、井戸海水の導入の可能性について調査を行う。</p> <p>2 主な事業内容</p> <p>(1) 試験掘削の実施</p> <p>広い空き地(公用地)を有する漁港(網代漁港、泊漁港、赤碕漁港等)において試験掘削を行い、海水が湧出するか調査を行う。</p> <p>(2) 湧出した海水の水質検査</p> <p>試験により海水が湧出した場合は、その水温や水質が魚介類の飼育に適しているか水質検査を行うとともに揚水試験を実施し、事業ベースの井戸を掘った場合の海水の揚水量を推定する。</p> <p>3 これまでの取組状況、改善点</p> <p>(1) 栽培漁業センターでの井戸海水の導入事例</p> <p>栽培漁業センターでは平成16年に試験掘削を行い、平成17年に井戸海水用の井戸を3本施工している。揚水した井戸海水は現在も様々な魚種の種苗生産に用いられている。井戸海水は水温が周年安定していることや清浄性が保たれているため、種苗の安定生産や魚類防疫の観点から欠かせないものとなっている。</p> <p>(2) 各漁協における紫外線殺菌装置の導入について</p> <p>田後漁協や赤碕町漁協及び県漁協の賀露地区等で海水の紫外線殺菌装置が導入されている。しかし、イニシャルコストやランニングコストが大きく、夏場は水温が高くなるため、水温が安定しておりランニングコストが低い井戸海水の導入が待たれている。</p>								